



越谷にプレーパーク

をつくる会 通信

【2023.08.03.現在】

←参加前に当会ホームページ新着情報をご確認ください
開催予定・時刻が変更になる場合があります

開催予定

8月							9月							10月							11月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6					1	2	3						1			1	2	3	4	5	
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
														30	31												

事業名	開催時間	開催場所
○ 越谷プレーパーク 越谷市プレーパーク事業	11時～16時	越谷総合公園（増林3-1）※グリーンマルシェ裏側トイレそば ※駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。
♡ おちかくプレーパーク In 千間台第四公園	10時～12時	千間台第四公園〈広場側〉（千間台西4-2）コスモス裏 ※8月は開催なし ※近隣有料駐車場をご利用ください
□ おちかくプレーパーク	10時～12時	8/3、9/7：レイクタウン湖畔の森公園
☆ 東越谷プレーパーク 越谷市放課後子ども教室	13時～16時	東越谷第七公園（花田1-4）

会員になってプレーパークを応援しませんか

全国各地で400を超える団体が冒険遊び場づくりに取り組んでいます。越谷にプレーパークをつくる会は、有志の市民が中心となってボランティアで運営しています。会費は活動の大切な資金となっています。越谷市が「遊びあふれるまち」になるよう一緒に願ってくれる方を募集しています。

■正会員 2000円/年
(活動趣旨に賛同し積極的に応援)

■賛助会員 1000円/口 何口でも！
(財政的にサポート)



自分の責任で自由に遊ぶ

普通の公園が禁止事項ばかりなのは、何かあったときに「公園をつくった人が悪い」と管理者の責任を追及する傾向があるからです。子どもが公園で自由に遊ぶには、「事故は自分の責任」という考え方が基本です。そうしないと禁止事項ばかりが増えてしまい、結果、子どもが自由にチャレンジする機会を奪うことになってしまいます。子どもが思いっきり遊べる場所をみんなの力で作りましょう！

寄付先、会費納入先のご案内

◆振込 ゆうちょ銀行口座への振込
店名：059 預金種目：当座 口座番号：0078897
受取人名：NPO 法人 越谷にプレーパークをつくる会
◆郵便振替
振替口座：ゆうちょ銀行 00540-2-78897
口座名義：NPO 法人 越谷にプレーパークをつくる会

プレーパークって？

「〇〇してはいけません」という禁止事項のない遊び場。何をしてもいい、なにもしなくてもいい。穴掘り、木登り、泥んこ遊びや火を使った遊びなど、子どもたちが「やりたい!」と思ったことを自由にできるように、大人たちが知恵を出し合って運営しています。

プレイリーダーって？

子どもとことん遊び、ありのままを受け入れ、遊び全体に目を配ります。遊びの種を蒔き、遊びを通して子どもたちの相談相手にもなってくれる、親でも先生でもない子どもと対等な大人です。遊びに伴う危険を予測して対応し、遊び場の整備なども行います。

9月1日～ 越谷市のふるさと納税*で遊び場づくりに挑戦！

どこでも遊び場プロジェクト

～どんな子どもも思いっきり遊んで、心の声を聞かせてほしい～

子どもと公園で遊んでいたなら、Aくんによく会うようになりました。人懐っこいAくん。けれど、突如表れる暴力的な言動に、翻弄されるようになりました。私だけでなく、そんな大人の姿がちらほら。どうしたものかと頭を悩ませる日々。このプレーパークの活動に関わっていなければ、正直私はAくんと距離をとっていたかもしれません。

ある日、Aくんの行動が度を越した時、代表理事の渇野に思わず電話をしたことがありました。「Aくんと話をしてごらん。あなたならできるよ」私は落ち着きを取り戻し、Aくんとベンチに並んで話をしたことがあります。Aくんははてっきり怒られると思っていたのでしょうか。怒られるのではなく、話をするの？という感じで驚いていました。そんなことが起こるたび、並んで話をしました。

Aくんは困っていることが分かりました。子ども食堂のことを伝えたり、プレーパークと一緒にいこう、と待ち合わせしたこともあったけれど、その日に限って現れませんでした。

子どもは困っている時に、困っているとは言えないんだ、とつくづく思いました。受け止めたい、何か力になりたいと大人たちが待っていても「相談」なんてできないんだと。でも唯一心の声が聞こえるのは、遊んでいる時なのです。Aくんがある日、「ねえ、知ってる？オレンち、マジ最悪だから」とつぶやいた言葉。私は今も忘れることができません。



プレーパークは子どもが子どもらしくやりたいことに挑戦できる場所です。どんな子どもにとっても目を輝かせて遊べる場所です。定期開催の遊び場は保護者が連れてくること多いのが現状です。子どもが自ら行ける場所に遊び場をつくりたい。

それが、プレイリーダーのいる移動式遊び場、どこでも遊び場プロジェクトでかなえることができます。昨年のクラウドファンディングでクルマの準備ができました。どんな子どもも、思いっきり遊んで、心の声を聞かせてほしい。そんな遊び場をつくりたい。どんな子どもにも、安心して思いっきり遊ぶ権利があるのでありますから。(かなもん)

ホームページ



NPO 法人越谷にプレーパークをつくる会

メール koshigaya.asobo@gmail.com

ブログ



LINE



Facebook



Instagram



*ふるさと納税を活用して寄附を募る仕組み。寄附額のうち自己負担金2000円を超える部分については所得税の還付、住民税の控除を受けることが可能となります。ふるさとチョイスに掲載され次第、ホームページにアップします。

当会ホームページ





子どもたちの自己肯定感を育みたい！

～ プレーパークと中高生 ～

私たちの活動は20年を経過しているので、始まった当初よく遊びにきていた子どもたちは今や高校生や大学生となっています。そんな子どもたちもたまにプレーパークに顔を出すことがあります。そんな時、幼いころにプレーパークでやった遊びをもう一度やりだすことがよくあります。特に顔なじみのプレイリーダーがいたりすると、まるで大人同士が本気になって遊んでいるようになります。以前と違うのは自分より年齢の低い子どもたちが一緒にいることです。いつの間にか彼らがリーダーとなって幼児や小学生と一緒に遊ぶことになります。このような姿は常設のプレーパークではよく見かけられる光景です。またその先には運営の担い手として役割が生まれたりします。これは家庭や学校では得られない社会の一員となる体験であり、自分が必要とされる場となるのです。



●いろいろな年代が混ざって、ドッジボール！

日本は30歳以下の死亡要因の第1位が自殺となっている国です。心が不安定になる若者が増えていることは深刻な状況といえます。

(図表5) 本県の死因順位別・年齢階級別死亡数(令和2年(2020年))

年齢階級	1位		2位		3位	
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数
15～19歳	自殺	44	不慮の事故	11	その他の神経系の疾患	5
20～24歳	自殺	63	不慮の事故	19	悪性新生物	12
25～29歳	自殺	64	不慮の事故	11	悪性新生物	10
30～34歳	自殺	85	悪性新生物	24	心疾患(高血圧性を除く)	18
35～39歳	自殺	84	悪性新生物	63	心疾患(高血圧性を除く)	31
40～44歳	悪性新生物	150	自殺	80	心疾患(高血圧性を除く)	69
45～49歳	悪性新生物	288	心疾患(高血圧性を除く)	130	自殺	122
50～54歳	悪性新生物	457	心疾患(高血圧性を除く)	203	自殺	121

出典：人口動態統計(厚生労働省)



●プレイリーダーと高校生。小3からの長い付き合い。

私たちが、プレーパークという子どものやりたい遊びを最優先にする場をつくっている理由の一つに子どもたちの自己肯定感を育みたいという思いがあります。自己肯定感とは、他者と比べることなく、ありのままの自分を認めることができる感覚のことです。前向きに生きていくために必要なことと言えます。自然体験や社会体験などの様々な経験が豊富であることと自己肯定感の高さについては、相関関係が見られると言われています。

プレーパークは屋外だからこそ、小さな子どもだけでなく、中高生など年齢問わず、誰もがふらっといくことができる場です。特に常設のプレーパークにはいつもプレイリーダーがいるので、中高生が一人でも気軽に行くことができ、おしゃべりしたり相談にのってもらったりもできます。子どもたちが困ったときに頼れる場にもなれると常設プレーパークの設置を越谷市に働きかけてきましたが現実は厳しいようです。プレーパークという場ではなくても中高生の居場所づくりができないか、私たちは考え始めています。(淵野)



●高校生とおしゃべりする男の子&プレイリーダー

おちかくプレーパーク in 千間台第四公園



「怒って子どもをひっかいちゃって…」私は五月の会でママたちに打ち明けました。私は疲れてなかったら、余裕があったら子どもが同じことをしても、怒らないのです。あるママは『うん、うん』と頷いて聞いてくれました。ここで話して、怒りすぎて後悔してしまうことが皆あると知りました。

世界でも虐待の少ないフィンランドにはネウボラがあります。妊娠したら担当のネウボラさんが子供の就学まで家族全員に話しを聞き、疑問や不安に答え、必要な支援も提案してくれます。私はホームサポートという支援を継続して利用しています。

虐待で報道される人と自分は何が違うのだろうと思うことがあります。そんな中、怒りは無理をしてい

ると知らせてくれているのだと受け止める様にしました。すると、心が楽になり、子どもが怒っていても同じ様に受け入れることができます。

子育てはいつだって予定外が予定通りです。予定外であることは、子どもに寄り添っているのだといつでも思える様になりたいです。(あっきー)



●7月18日晴れ とても暑かったけど思いっきり水遊び！

東越谷プレーパーク

～ ハラハラするとき ～



今年も始まりました、プレーパーク教室。初回目立ったのは、夢中になって水をかけあう子たちでした。とても激しく水をかけあうので、中にはケンカにならないかハラハラしながら子ども達を見ていた人もいました。危ないシーンはスタッフが介入したりしましたが、最後まで白熱していました。「自由に遊ぼう」というと、普段のストレスがたまっている場合、危険度の高い遊びとなって表れることがよくあります。スリルを楽しむように。

そんなときは、壊してもいいダンボールを用意したり、スタッフが遊びの輪に入り、危険のないよう誘導することもあります。もちろんケンカになることもあります。

今の小学生はケンカをしたことのない子が多いと思います。トラブルが起きたらすぐに大人が介入し話し合いで解決することを、幼少期から教えられているからです。ただ、それでは子ども達の有り余るエネルギーは行き場がなくなるようです。そんな子ども達のエネルギーがプレーパークで発散される場面を見かけることがあります。

時には破壊的な遊びが必要なのです。大人はハラハラしますが、そんなときこそ子ども達を信じて見守りましょう。他の子が、ケンカを止めてくれたり、忘れて遊びだしたり、たくさんの終決の形があるものです。(クリボー)

地域の皆さん
ありがとうございます

(株)山下工務店さま 榎組さま 野口組さま イオンスタイルせんげん台さま
MEATMeet 大袋店さま タイヤガーデン越谷店さま ドラッグストアセキ花田店さま
ご寄附、木材、古タイヤ等、提供頂いております。